

しゅく まつど し じんこう まんにんとうたつ

祝 松戸市人口50万人到達

第<sup>だい</sup>33<sup>かい</sup>回<sup>かい</sup>松戸市外国人

日本語スピーチコンテスト

固い根

To firmly establish the foundations  
and fundamentals of things and  
make them unshakable.

ねん がつついたち ど じ  
2025年3月1日 (土) 13時から

まつど し みんげきじょう  
松戸市民劇場

## 【表紙の書】

書: 檜作 直美 (翠京書道会)

MIEA会員

本年の書は「深根固柢」とさせて頂きました。

新しくなった世の中、前進するのみではありますが、自分のもっているものを将来に向けて磨くために、基礎固めこそ強くなるものと思っております。

## ■司会

姜 性湖

まつど国際文化大使 韓国出身

坂口 心優

専修大学松戸高等学校3年

第42回松戸市高校生英語スピーチコンテスト優秀賞

## ■ボランティア

千葉県立松戸国際高等学校の生徒の皆様

松戸市立松戸高等学校の生徒の皆様

主催 公益財団法人松戸市国際交流協会

共催 松戸市

協賛 国際ロータリー第2790地区第13グループ

(松戸・松戸東・松戸北・松戸中央・松戸西各ロータリークラブ)

◇ ■ ◇ ■ ◇ 次 第 ◇ ■ ◇ ■ ◇

◆ 開会

13時00分

主催者挨拶

公益財団法人松戸市国際交流協会理事長 伊藤 誠

審査員紹介

一般社団法人アクラス日本語教育研究所代表理事 嶋田 和子 様

松戸市日本語ボランティア会会長 江川 豊 様

松戸市立松戸高等学校外国語講師 まつど国際文化大使 石関 多美子 様

松戸市教育委員会 学習指導課 指導主事 菅谷 周平 様

公益財団法人松戸市国際交流協会副理事長 木川 総一郎

◆ コンテスト

前半の部 — 休憩(15分) — 後半の部

◆ アトラクション

武神館による忍術の演武

◆ 表彰式

15時30分

来賓挨拶

松戸市長 本郷谷 健次 様

松戸市議会議長 渋谷 剛土 様

国際ロータリー第2790地区第13グループ ガバナー補佐幹事 井奥 俊博 様

講評

審査員長 嶋田 和子 様

審査結果発表及び表彰

松戸市長賞

公益財団法人松戸市国際交流協会理事長賞

優秀賞

ロータリークラブ賞

特別賞

◆ 閉会

16時20分

◆ 懇親会

16時30分 会場:1階 第2・3会議室 (17時終了予定)

# アトラクション

# ぶじんかん 武神館



えんぶえんもく じゆんぶどう・へんこうあり  
【演武演目】 ※順不同・変更有

勝鬨 (かちどき)

1. 鎧陣形守り型 (よろいじんけいまもりがた)
2. 水の型 (みずのかた)
3. 飛鳥の型 (ひちょうのかた)
4. 十文字の型 (じゅうもんじのかた)
5. 鬼砕き (おにくだき)
6. 刺股 (さすまた)
7. 眉尖刀 (びせんとう)
8. 如意棒 (にょいぼう)
9. 薙刀 (なぎなた)
10. 乳切木 (ちきりぎ)
11. 距跛渉毛 (きよけつしよげ)
12. 忍者影の一刀 (にんじゃかげのいっとう)
13. 十文字槍 (じゅうもんじやり)
14. 三尺棒 (さんじゃくぼう)
15. 六尺棒 (ろくしゃくぼう)
16. 忍縄 (しのびなわ)
17. 仕込み杖術 (しこみじょうじゆつ)
18. 大太刀 (おおだち)



くもがくれいゆうにんぼう だいそうけ

雲隠流忍法15代宗家

ふるた こうじ し  
古田 恒二氏

ねん たいかい  
2023年フランクフルト大会 (ドイツ)



くもがくれいゆうにんぼう ふるとどうじょう ちゆうしん  
雲隠流忍法の古田道場を中心としたメンバーのみなさま

## ぶじんかん 武神館

ぶじんかん の だ はつみまさあきせんせい な  
 武神館は野田の初見良昭先生が、奈  
 ら たかまつとしつぐせんせい りゆうは ひ  
 良の高松寿嗣先生より9つの流派を引  
 きつ 継ぎ、これをとうごう そうせつ  
 き継ぎ、これを統合し創設されたもの  
 です。現在、北米 (アメリカ、カナ  
 ダ、メキシコ)、ヨーロッパ (ドイ  
 ツ、スペイン、フランス、イギリ  
 ス)、南米 (ブラジル、アルゼンチ  
 ン、チリ、コロンビア)、アジア (タ  
 イ、インド、台湾)、中東・東欧 (ト  
 ルコ、イラン、ロシア、ウクライナ)  
 などにもんてい せかいじゅう すうじゅうまんにん  
 などに門弟がおり、世界中で数十万人  
 のせいと 生徒がいますといわれています。

## にんじゃ 忍者とは

まごころ も くにかぞく しぜん あい  
 真心を持ち、国や家族、自然を愛  
 し、へいわ まも いぬ おげいしや  
 平和を守って生き抜く武芸者で  
 す。ぼうりよく たか もくてき  
 す。暴力や戦いそのものを目的として  
 いません。かま いぬ  
 勝ち負けではなく、『生き抜  
 くちから じゆつ しゆぎょう つね おもん べんがく  
 く力』と術を修行し、常に武門と勉学  
 はげ  
 に励んでいます。



## にんじゃ れきし 忍者の歴史

ふる しょうとくたいし じだい し の び  
 古くは、聖徳太子の時代「志能便」  
 として、そのまわ そんざい こくせい たす  
 周りに存在し、国政を助  
 けていたともいわれています。せんごくじ  
 戦国時代には、そのゆうせい じょうほうのうりよく たか  
 有能性と情報能力の高さ  
 たいへんかつやく  
 から大変活躍されたといわれています。



だい かい  
第33回

まつどしがいこくじんにほんご  
松戸市外国人日本語スピーチコンテスト  
しゅつじょうしゃいちらん  
出場者一覧

No.	氏名	国	演題	ページ
1	ファン バン タイ Phan Van Tai	ベトナム	受け止めざるを得ないこと	1
2	リ シンキ 李 晨綺	中国	私の考え	3
3	ゴンザレス グレザ ベルチェス Gonzales Gleza Vilchez	フィリピン	私の母はうそをつくのが好きです	5
4	ヴォ ティ ジェウ Vo Thi Dieu	ベトナム	夜中の散歩	7
5	コ セツジョ 胡 雪茹	中国	自分の考え：日本の試験制度から学べること	9
6	ネパール アヌラグ Nepal Anurag	ネパール	フレンチ日本	11
7	ルオン ヴァン デ Luong Van De	ベトナム	留学生の来日当初の苦労	13

きゅう けい  
休憩

8	ククシュキン ドミトリー Kukushkin Dmitrii	ロシア	世界の美しさはその多様性にある	15
9	イルシ チャマスカ Irushi Chamathka	スリランカ	自分を変える自分	17
10	テクソン ロウエノ アリカバ Tecson Roweno Alicaba	フィリピン	大切なことを思い出した	19
11	チエウ ティ トウ フオン Trieu Thi Thu Phuong	ベトナム	日本の水インフラが生む豊かさ	21
12	ガルバドラフ ゲレルトヤー Galbadrakh Gereltuya	モンゴル	え、それも捨てちゃうの!?	23
13	オウ ナリタケ 王 成岳	中国	言語を超えた温かさ、心で繋がる瞬間	25
14	ルオン ティ グエット Luong Thi Nguyet	ベトナム	私が日本で得たもの	27

■ 審査は、内容・日本語力・話し方を基準にして行います。スピーチ原稿は応募されたものをそのまま掲載しております。

# ① 受け止めざるを得ないこと

ベトナム／<sup>ファン バン タイ</sup>Phan Van Tai

ベトナムから参りましたファン バン タイと申します。これから日本で感じたことをスピーチさせていただきます。

よろしくお願いします。

みなさん、差別されたことがありますか。日本に来る前に私は日本に関することはあまり知りませんでした。インターネットでは日本はすごくきれいな国だし、文化もおもしろいと評価されています。発展している国で自分も成長できると思って2023年の3月に新聞奨学生として日本に来ました。日本に来てからも、まじめな自分はきっと問題がないだろうと思っていました。

しかし、新聞店で働いている時、お店に置いてあるコップを使って水を飲んだ時のことです。水を飲み終わって、他の人がするように元の所にもどしましたが、となりに立っていたおじいさんに「流しに出しておいて。きたないから。」と言われました。私はびっくりして、「きれいに洗ってから、もどしましたよ。」と言いましたが、返事はありませんでした。何も言い返せなかった私はだまって仕事を続けました。その時から言われたことをずっと考えていて仕事に集中できないほど落ち込んでしまいました。結局、新聞を間違えて配達してしまいました。私の国では会社や学校などでは一緒にコップを使うのは普通のことなので、侮辱されたと感じました。しかし、日本では会社などに置いてあるコップを使おうと思っている時は、ちゃんと確認しておくべきだと気づきました。

私は日本のサービスは世界で一番いいと評価されていると知っています。ある日、東京にある有名なブランド店に入りました。そのブランドは世界中で知られているので、自分もそこで買い物すれば、きっといい商品が買えるのだらうと思いました。しかし、その店に入ったところ、その店の店員の態度に驚きました。日本人のお客さんに親切に接客しているのに、私を見ると嫌な目つきをしました。しばらく、日本でそんな風に差別されたとは思えませんでした。その後、ちょっと悲しかったですが、自分に「しょうがないから」と言いました。

家に帰ってから、自分の人生は両親から与えられたものなので、これからも自分が不自由だと感じた時は気にせず、神様に与えられたようなものだと思うことにしました。そもそも順調で円満に生きるために障害は欠かせないものですから、受け止めなければならないのではないのでしょうか。私は差別されたおかげで、まずは何かあったら「どうしてだろう」と考えること、そして、消極的に考えすぎず、積極的に立ち上がらなければならないという経験ができました。

社会はそれぞれ違いますから、人の考えを変えることはできません。私も差別されること自体を悲しんでいましたが、他の出会った日本人たちは差別しないで、日本人に対するのと同じような態度でした。世の中にまだ差別する人もいると思うので、これからも差別されることは避けられません。しかし、きれいじゃないものときれいなものはいつも一緒に存在しています。差別されたからといって、日本人の印象が悪くなるわけではなく、差別されてからこそ、いつも自分のことを尊重してくれる人との関係を大事にしていきたいと思っています。

ご清聴、ありがとうございました。



## ② <sup>わたし</sup> <sup>かんが</sup> 私の考え

ちゅうごく / リ シンキ  
中国 / 李 晨綺

私は中国から日本に引っ越してきた高校生です。2年前、日本語も話せず、日本の文化にもまったく触れたことがない状態で日本に来ました。当初は戸惑いと不安ばかりでしたが、この2年間の生活を通して、日本の文化や人々の考え方に触れ、大切なことをたくさん学びました。

日本に来たばかりの頃、まず驚いたのは人々の礼儀正しさと周囲への配慮です。学校では「おはようございます」「失礼します」といった挨拶を大切にし、どんな小さなことでも「ありがとうございます」と感謝の気持ちを伝えることが当たり前のように行われていました。一方で、中国では家族や友人とのつながりを深めることに重点が置かれ、より率直で自由なコミュニケーションが主流です。最初はその違いに戸惑いましたが、次第に日本の「和」を重んじる姿勢を理解し、相手を尊重する心の大切さを実感するようになりました。

また、文化面でも大きな違いを感じました。日本では四季を大切にし、季節ごとに楽しむ行事や食文化が豊かです。春には花見、秋には紅葉狩りといった自然との調和を感じる活動が多くありました。一方、中国では春節や中秋節といった伝統的な家族行事が中心であり、家族が集まり共に時間を過ごすことが重視されます。この違いを知ったことで、どちらの文化にもそれぞれの美しさがあることに気づきました。

しかし、日本での生活を通じて、日本と中国の間にあるお互いへの理解不足も感じました。たとえば、日本の友人たちは中国の文化や歴史についてあまり知らないことが多く、逆に私自身も日本について正確な知識を持っていなかったことに気づきました。時には誤解や偏見を耳にすることもありましたが、それは互いに知る機会が少ないからだと思います。

私の願いは、日本と中国の人々がもっと深くつながり、お互いの文化を理解し合うことです。そのためには、交流の機会を増やすことが必要だと思います。たとえば、学校での文化紹介イベントや留学プログラムを通じて、若い世代が直接触れ合い、対話を深める場をつくるのが大切です。私自身もこれから、友人たちに中国のことをもっと伝え、日本についてもさらに学んでいきたいと考えています。

日本で過ごした2年間は、私にとって大きな成長の機会となりました。異なる文化に触れることで、自分の視野が広がり、相手を尊重することの大切さを学びました。この経験を通じて、私は日中両国の人々がもっと理解し合い、深い絆を築ける未来を信じています。それが、私の考えです。



### ③ <sup>わたし</sup>私の母は<sup>は</sup>うそをつくのが<sup>す</sup>好きです

フィリピン / <sup>ゴンザレス</sup>Gonzales <sup>グレザ</sup>Gleza <sup>ベルチェス</sup>Vilchez

私の母はうそをつくのが好きです。でも、うそが下手です。すぐわかってしまいます。

私が9歳になる前に父がバイクの事故で亡くなりました。家族はとても悲しみました。父の死に最も影響を受けていたのは母でした。「家族はどうなりますか。私はまだ子供なのに。」そう思った私は聞きました。「ママ、これからどうしよう？」と。母は「大丈夫、あなたたちのために頑張る。」と言っていました。けれど、母はうそをついていたんです。私が寝ている間に母の泣き声が聞こえました。

母は農業をしています。毎朝5時ぐらいに家を出ます。帰る時間は午後6時ぐらいです。ある日の午後、仕事から帰ってきた母に私は聞きました。「ママ、何を持っているの？」と。母は、「パンだよ。妹といっしょに食べて。」と言いました。「ママは？」と私は聞きました。「大丈夫、おなかがすいていないから。」母はいつもそう言うのでした。頭の中にはその言葉が残りました。それもうそだったんです。母のおなかが、ぐうっと鳴るのも聞きました。どうして母は食べないのか、理由がわかると悲しくなりました。たぶんお金がなかったから十分なパンがどうしても買えなかったのでしょうか。「何で私たちの生活は大変なんだ？」と私は考えました。大人になったらこの状態を変えたいと思いました。

私は今、日本に留学してもうすぐ2年です。日本に来るのは子供のころからの夢でした。初めて日本に来たとき日本の美しさに大きな希望と期待を抱いてわくわくしました。日本語の勉強は大変だし、家族と離れて暮らすのも大変だと思いますが、これが私の夢だし、家族にも恩返しをしたいので日本で頑張ろうと思いました。

最初の5か月は頑張りましたが、疲れを感じる事が多くなりました。夢は現実と全然違うことに気づいて、あきらめかけました。SNSで見た、日本は静かで平和な国だし、国民はやさしくて文化もすてきだという話は本当だと思いました。しかし、日本での生活がどれほど大変か、だれも私には教えてくれませんでした。物価が高いこと、税金や健康保険料なども支払わなければなりません。学校へ行って宿題をして、新聞配達のアルバイトのために午前0時30分に起きて準備します。毎日同じことを繰り返すことに疲れてしまいました。

日本での生活が嫌いなわけではありませんが、日本はルールなどがとても厳しいと思います。けれど、それがみんなの安心や平和のためでもあると理解しようと思いました。でも、日本は静かなのでフィリピンでのわたしの生活と違います。にぎやかな生活が恋しくなります。

毎日母に電話しています。母は心配なことがあると「大丈夫？」と聞きます。私は「大丈夫だよ。」と言っています。「お金はある？」私は「はい。」と答えます。母と私は同じです。うそをつくのが好きです。

大人になると本当に大変ですよ。責任も増えてきます。以前、母に「私と同じになって、はじめて人生の大変さがわかるよ。」と言われましたが、その時はそんなことはないと思っていました。親が私たち子供によい生活を与えるために両親がどれほどの苦勞をしているか、どれほどのつらいうそをついてきたか、子供は知らないものです。けれども、今はわかります。毎日頑張らないといけない。どうすればいいのかわからないと感じるたびに、私は母の努力を思い出します。両親がしてくれたことに感謝すべきだということをみなさんに伝えたいです。



## ④ よなか 夜中の散歩 さんぽ

ベトナム / ヴォ ティ ジエウ Vo Thi Dieu

仕事中にしょっちゅう見かける光景なのですが、どうしても理解できずに不思議でたまらなかつたことがあります。夏の日でも冬の日でも夜中の2、3時に犬と散歩する人がいることです。

散歩は朝か夕方ぐらいにするイメージがあると思います。いったい何でこんな時間に散歩するのか仕事中にずっと頭の中で考えていました。ある日、新聞をポストに入れようとした時ちょうど犬と散歩していた配達先のおじさんが帰って来て、これがチャンスだと思って、ずっと気になっていたことを口に出しました。「おはようございます。」「あ、ごくろうさまです。」「いえいえ、なんでこんな遅い時間に散歩するんですか。」「仕事の帰りが遅いんですよ。」「え、大変ですね。」「仕事だからしょうがないな。」「きみも気をつけてね。」「はい、ありがとうございます。」「あ、そうなんだ。単に仕事の帰りが遅いんだと思いつつ、仕事を続けました。

日本に来て、あっという間に2年たちました。日本の生活リズムは速すぎるなど実感しています。周りを見ると、みんないつも急いでいるようです。駅のホーム、電車のアナウンス、交差点の人ごみ、満員の電車、コンビニ……。どの方向に目を向けても速く、速く、と急がされるような感じがします。駅、コンビニ、交差点、混乱せずにきちんと列に並んで順番をまもっているけれども何か急がされる感じがして、自分もつい急がないと勝手に思い込んでいました。

生活リズムが速いと実感するのはなぜでしょうか。考えてみると、1日は24時間あり、勤務時間は8時間としたら16時間は自分のための時間になります。しかし日本ではほかの国よりも多く働き、1年で2000時間をこえています。先進国の中では最も多いです。50年前に比べて300時間も増えたそうです。勤務時間が増えることはほかの時間を割かなければならないということです。

働きすぎるのは一見何も悪いことにはならないですが、実際に今、日本社会にある問題の原因はこれではないかと私は思います。夜中に散歩するおじさんのように仕事以外はほとんど時間がありません。時間がないとほかのことに目を向けることもできないため、だんだん人間関係がうすくなり、結婚しない選択をする人がますます増える社会を招きつつあります。また、引きこもりになる人、うつ病にかかり、過労死など思いもよらない結果になってしまいます。体を壊してまで仕事をする必要はありません。

私にとって仕事の意義はまず、生活の需要を満たすためだと思います。朝早く家を出て深夜に帰って適当に食事、シャワーを済ませて、「疲れたなあ、明日もまた仕事か、はあ。」と考えて寝ます。朝、目覚めて仕事に行くだけのくり返しになります。生活するために仕事をするのでしょうか。仕事するために生きるのでしょうか。どちらかと言うと仕事するために生きるような感じがします。

もっとよい生活をおくるため、働きすぎて、物質的には満たされるのに精神的に豊かな生活がおくれない生活は本当にいいのでしょうか。仕事中心に生活するのは本当にいいのでしょうか。このままで本当にいいのでしょうか。夜中に散歩するより昼間にのんびり散歩するほうがいいと私は思っています。





一方、日本ではどうでしょうか。日本に来て初めての試験を受けた時、私は驚きました。成績が個別に配られ、他人に知られることがありませんでした。「え？この点数をクラス全員に見られないの？」と戸惑いましたが、同時に安心感を覚えたのも事実です。誰かと比べられる心配がないので、自分のペースで努力を続けることができる。この仕組みには大きなメリットがあると感じました。

それから、日本のこの「プライバシーを守る」試験制度に慣れると、自分の勉強スタイルも変わりました。他人と競うのではなく、自分の目標に集中することができたのです。例えば、英語のテストでは、最初はクラスの平均に届かない点数でしたが、少しずつ自分のペースで学習を続け、最終的にはトップクラスに近い点数を取れるようになりました。この成功体験は、「比べない環境」がいかに成長に繋がるかを実感させてくれました。

私は、この制度を中国も取り入れるべきだと考えます。もちろん、競争による向上心も大切ですが、それ以上に、個人のプライバシーを守りながら努力を続けられる環境の方が、生徒一人ひとりの成長に繋がるのではないのでしょうか。

日本に来て、この考え方に気づけたことをとても感謝しています。皆さんも、自分に合った勉強の仕方や環境について考えてみてはいかがでしょうか？

ご清聴ありがとうございました。



## ⑥ フレンチ日本<sup>にほん</sup>

ネパール アヌラグ  
ネパール / Nepal Anurag

みなさん、こんにちは。よろしくおねがいします。日本で散歩している時とても発音しにくい英語で書いている美容院とかレストランを見たことがありますか。それはフランス流の美容院やフランス料理のレストランです。日本なのになんでフランス文化の影響を受けた店などがこんなにいっぱいあるのかを考えたことがありますか。

私は日本に来た初めのころはどうしてフランス文化が日本でこんなに広がっているのか不思議に思っていました。

日本では150年前の明治時代のころからフランスの影響を受け始めました。そして、19世紀に重要なパートナーとなって、今は日本でのファッションや美術や食事にもその影響を見ることができます。

今、私が住んでいるマンションの名前は「メゾン デ ピエールレー」です。もちろん書くのは難しいです。そして、もしだれかに住所を聞かれて答えると、私はお金持ちだと思われれます。ある日、新宿で友達とカラオケに行った時、私の在留カードに書かれている住所を見た友人に私はお金持ちだと思われました。それはなんでかな？という疑問が頭に残りました。そして、私がいつも行く美容院が閉店になったため、家の近くにある「フルールディオール」という美容院に行きました。サービスはとてもすばらしかったですが、値段はいつもの店の3倍ぐらいでした。そして、近所にあるフランス料理のレストランとフランス風のスーツを仕立てるテーラーに来るお客様を見て、フランス文化は日本ではステータスが高いのだと気がつきました。

私はアニメが好きです。それで、もしアニメの舞台がヨーロッパだったら、フランスを見ることができます。そして、アニメのキャラクターもフランスの文化をよく知っていたのを見て、なぜだろうと疑問に思いました。それで日本に来て、その答えがわかりました。

私はほかの国の文化が自分の国に広がっていることについて反対しているわけではないですが、母国では国民の皆が西洋化されて、母国の文化をだんだん忘れていくということがあります。伝統的な文化はどんどんなくなっています。ネパールでは129の民族の文化の中で12の文化がなくなって、その民族の中で話している言葉や言語もなくなりそうです。

私の両親が知っている私たちの民族の文化を私は全然知りません。私がどうしても知りたいたくても両親が忙しくて、教えてくれる人はいません。母国だけではなく、世界中で今まで1000以上の文化がなくなってしまいました。

日本で私が気付いたことは、日本は外国の文化も取り入れながら自分の文化も大事にしているということです。今までは大丈夫でしたが、日本人の人口はますます減って、外国人の人口はどんどん増えています。そして、日本の生活は忙しくて、日本でも昔からの伝統的な文化はなくなる恐れがあるのではないのでしょうか。

ですから、日本は外国の文化の影響を少し抑えたほうが良いと思います。そして両親が子供に自分の文化を引き継がせたほうが良いのではないかと思います。

ご清聴ありがとうございました。



りゅうがくせい らいにちとうしょ くろう  
⑦ 留学生の来日当初の苦勞

ルオン ヴァン デ  
ベトナム / Luong Van De

留学生の皆さん、日本に来たときのことをまだ覚えていますか。私はまだ鮮明に覚えています。日本に住んで8か月になりますが、初めての海外、初めての飛行機ということもあり、その時の感情は今でもサスペンス映画のような身に迫る音楽と共に、昨日のように思い出することができます。飛行機が着陸する前に、機内アナウンスで外気温が6度だと言っていました。ベトナムの気候とは全く違う寒さにとても新鮮な気持ちになりました。空気はきれいで、道にもゴミ1つ落ちていませんでした。新生活を始めるのには素晴らしい場所だと思いました。しかし、その環境に適応するには多くの困難があったのです。私の個人的な意見では、日本に来たばかりの留学生は2つの問題に遭遇します。

1つ目は、言語の壁による日常コミュニケーションの問題です。日本に来たばかりの学生は国で少し日本語を勉強していても、実際の生活で聞くことにも話すことにも慣れていません。スーパーの店員、日本語学校の先生や他の国のクラスメイト、アルバイト先の人の言っていることがほとんどわからないという大変な状況です。携帯の翻訳を使うのですが、授業中や勤務中に携帯を使用することはできません。私は、今は理解してきましたが、住所登録などの手続きも、説明されても何をしているのかわからないまま、難しい漢字をたくさん書いたということしか覚えていませんし、学校で先生が言っていることもわからないので、何を質問すればいいのかもわかりませんでした。ですから、日本語を学ぶだけでなく、日本文化や法律、ルール、振舞い方なども学ぶ必要があると思います。そうすれば、日本人たちも留学生や外国人労働者に対してより前向きで歓迎的な見方をしてくれるようになると思います。

2つ目は、アルバイト探しです。日本に来てしばらくして少しずつ道や交通手段に慣れてきて、学校での勉強だけでなく社会勉強もしたい、生活のためにお金も必要になってきたという時に、アルバイトを始めようと思ったのですが、多くの困難に直面しました。日本語はまだ下手でしたが、とにかく学校以外でいろいろな経験を積みたくて、思い切ってアルバイト募集中のレストランを見つけて1ヶ月の間に3軒面接に行きました。面接が終わるたびに私はすごく興奮して結果を待ちましたが、数日間待った後、雇用主から受け取った答えは不採用のお詫びでした。とても残念な気持ちになりましたが、今度は自分の能力に見合った、それほど日本語能力を必要としない別の仕事を探すことにしました。その結果、無事、食品会社に採用になりました。このような経験から、まずは自分の能力に合った仕事を見つけて、日本語学習を進めながらアルバイト先で日本での仕事の仕方を学ぶ必要があります。そして、そこで学んだことで日本語能力も上がるのだと思います。

これまでの私の留学経験から言うと、日本に来る前に良い準備をするには、日本語を学ぶだけでは十分ではなく、住む場所の文化や法律について積極的に学ぶ必要があると思います。そうすればその国で、生活に早く溶け込むことができますと思います。そして「若い時の苦勞は買ってでもせよ」という言葉がありますが、この苦勞が私たち留学生にとって貴重な経験となり、これからの人生に役立っていくのだと思います。



## ⑧ <sup>せかい</sup>世界の<sup>うつく</sup>美しさはその<sup>たようせい</sup>多様性にある

ロシア / <sup>ククシュキン ドミトリー</sup>Kukushkin Dmitrii

皆さん、外国に住むことを考えたことがありますか？私は、それが人生を変えるほど素晴らしい経験になると信じています。そして、それは視野を広げ、自分自身を成長させる貴重な機会でもあります。今日は、日本に来てから私が発見したことについてお話ししたいと思います。

日本に来る前、私はふるさと以外の場所に行ったことがほとんどありませんでした。そのため、この世界についてほとんど何も知りませんでした。しかし、日本に来てすぐに外国人との交流に関わる機会が増えました。しかし、自分の冗談や考え方は外国人にとって分かりにくいことを気づきました。同時に相手の文化についてもあまり知らないと感じ、もっと知りたいという気持ちで、「どうしてそう言うのですか」や「どうしてこんな事をやりましたか」という質問をよく考えました。

だんだんと色々な人の理想や夢や考え方を理解するようになりました。そして、この世界は自分だけのものではなく、皆が共に生きているものだ気づきました。その結果、より良い世界を作るためには協力が重要であると感じるようになりました。

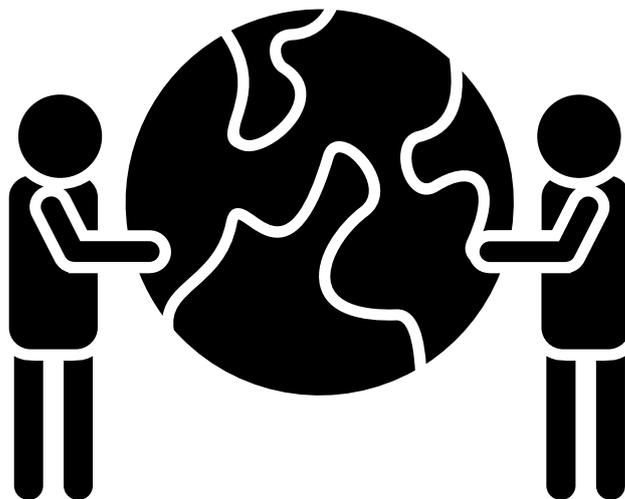
ということでは、この世界の多様性を納得して、色々な知識を得て、自分の成長になるはずです。

コミュニケーション能力や判断能力を身につけるチャンスではないでしょうか。

ところで、あの時気に入りましたことは、日本の「猿でも木から落ちる」という日本の諺です。どうしてかというと、どんな人でも落ちることがあって、間違いは人生の部分だということ、頑張るべきだと感じていました。一番好きな諺になりました。

また、この世界には社会的な美しさがたくさんあることを実感しました。例えば、日本の茶道やドイツのオクトーバーフェストのような文化的な遺産について話を聞くと、そこに込められた伝統や人々の思いが伝わってきて感動しました。同時に、自分の国にも同じように大切にされている文化があることを思い出し、それをもっと深く知りたい、伝えたいという気持ちが生まれました。こうした経験を通して、他国の文化を理解するだけでなく、自分の文化にも新たな視点を持てるようになりました。

私は法学を勉強したいですが、この経験を通じて一番勉強したいことが決まりました。"国際法を学び、多国籍企業や非政府組織で働くことで、社会に貢献したいと考えています。それでは、皆もこのような経験を身につけて、新しいことを発見することができると思っています。



## ⑨ 自分を<sup>じぶん</sup>変<sup>か</sup>える自分<sup>じぶん</sup>

スリランカ / <sup>イルシ</sup><sup>チャマスカ</sup> Irushi Chamathka

みなさんに質問です。今までの人生で「自分を変えたい」と考えたことがありますか。もしくは、自分を変えたいと思っても上手くいなくて途中でやめてしまった方もいるのではないのでしょうか。実は三年前、私もそのような経験をしました。2022年に来日したあと、学校生活ですごく苦勞したとき失敗ばかりでした。そのときは自信もなくなり、日本に行く前に描いていた運動部に入部するなどの希望や夢までも失われてしまいました。その時「夢を簡単にあきらめてはだめですよ」という母の声かけに目覚めた私は、自分のダメな部分に気付くことができ、『自分で自分を変える』ことができました。みんなの前に立つことができるのは、その時の経験や学びがあったからで、今日はその「自分を変える自分」について発表したいと思います。

来日した翌月から中学三年生の普通のクラスに入った私は、母国スリランカで体験していなかったことがたくさんあり、まごつきました。みんなと日本語が話せなかったので落ち込みました。授業内容も理解できず、5月の定期テストでは、社会の問題一問も解けず、名前しか書けませんでした。刺激がなくつまらない毎日、ストレスばかり募り、『できない』『もうダメ』とあきらめるどころでした。

「何ができないの?一つずつやればいいでしょう」お母さんに声をかけられた私ははっとして、本気になって考えました。『ほんとに何をできないか、どうすればできるようになるのか』を考えてみました。そこで気づきました。今の自分を変えるためには一つ一つの行動を変えないといけない。明日というよりも今からの行動を一つずつ変えていかないと、何も変わらないのではないだろうか。そう思った私は『自分で自分を変える』ためのあらたな一歩を踏み出しました。自分を信じた実戦を始めました

授業中に聞いた言葉をノートに書き、家でその言葉の意味を辞書で調べることで、単語をたくさん習得していきました。また毎週土曜日には、地球っ子プロジェクトのオンライン授業を受講し、細かな日本語の表現を学びました。さらに、漢字や文法の勉強を頑張りました。何回書いても覚えられなかった漢字をカードに書いて持ち歩きました。文法は例文を作って暗記したり、実際の会話で使ったりしました。また学校でみんなと一緒に教科書を音読するために、前の日には意味や下調べをしました。平日4時間、休日8時間くらい勉強しました。「Trust yourself and move forward」と気持ちを持ち、将来の夢に向かって日本語の勉強を頑張りました。

結果、先生やクラスメートの話しや授業内容などがどんどん理解できるようになりました。最初の頃、全く分からなかった日本語が分かるようになりました。それだけではありません。幸運なことに、周囲からのたくさんの暖かい応援と自分自身の努力が実り、希望していた高校に合格出来ました。今は日本人のクラスメートに囲まれて充実した日を送っていますし、日本語で困っていることはあまりないのです。

このような経験から、私は、「人生は変えるものだ」「自分を変えるのは自分だ」と学びました。「登れば登るほど視野が広がる」という言葉の本当の意味を実験することもできました。

最後に、皆さんに伝えたいことがあります。「変えられない」のは変えるための方法が分かっていないからです。自分を変えるというのは一つ一つのアクションを変えることです。一つ一つの行動を変えれば、意識するだけで変わるものです。無理に性格を変えようとするのではなく、やる気を表に出すことが大事だと思います。今からの行動を一つずつ変えていきましょう。本気で自分を変えたい人は是非、実践してください。



## ⑩ <sup>たいせつ</sup>大切なことを<sup>おも</sup>思い出<sup>だ</sup>した

テクソン      ローエノ      アリカバ  
フィリピン／Tecson Roweno Alibaba

どうして日本人の中には大人になって、実家を出てからあまり両親に会いに行かない人がいるのかと考えています。もちろん、日本の文化はフィリピンの文化と違いますが、日本に住んでいて何か違うことを見た時に、フィリピンと比べてしまいます。

私は今、2年ぐらい留学生として、1人で暮らしています。特別な経験はないのですが、気になったことがあります。

ある日、先輩たちの卒業式がありました。ステージに堂々と上がる先輩たちを見て、「私はまだまだ努力が足りない。もっと頑張ろう。次の出番は僕だ！」と思いました。卒業式が終わって、帰る途中で、いいにおいに気づきました。ちょっと探すと小さい店でパンケーキを焼いているおばあさんがいました。おばあさんの笑顔を見て、かわいくて、パンケーキのいいかおりがして、店の前で止まってしまいました。「こんにちは。いいにおいですね。それはパンケーキですか。」と聞きました。おばあさんは「うん。パンケーキだよ。」と笑顔で返事しました。その時、本当にわくわくして、そのパンケーキをすぐに食べたくなったんです。「2つお願いします！」と気づいたら言っていました。

待っている時におばあさんに「どこの方なの？」と聞かれました。その時、日本語にまだまだ慣れていなかったなので、すぐに答えられず、10秒ほどしてから「あっ、フィリピンから来ました。」と答えました。返事は遅れましたが、その返事だけでほめられました。「日本語、上手だね。どのくらいここにいるの？」また何秒かしてから「1年ぐらいです。でも私の日本語はまだまだです。」と答えました。すると、おばあさんは「いいえ、いいえ。上手だよ。」と言いました。わたしは照れながら「ありがとうございます。」と答えました。

そして私はおばあさんにもっと話しかけました。「おばあさんは1人で経営していますか。」「そうだよ。10年ぐらいやってる。」「すごいなあ。おばあさん、1人で経営している。」

おばあさんはどうぞ、と言ってパンケーキをくれました。私はお礼を言って帰りました。帰り道、おばあさんの言ったことをずっと考えました。私の日本語が上手だなんて、信じられませんでした。その日から時々おばあさんの店に寄って、パンケーキを買うようになりました。

ある日、気になったことを聞いてみました。「おばあさん、準備を手伝ってくれる人はいないんですか。」おばあさんは「いないね。夫がいるけど自分のやることがあるから、手伝ってもらえない。」と言いました。「子供はいらっしゃらないんですか。」「子供は遠い所にいる。そこで仕事をしているから会わないよ。」おばあさんの言葉に寂しい感じがしました。

「そうですか。でも週末、子供は帰ってきませんか。」と聞きました。そしておばあさんの返事にびっくりしました。「子供たちはこの家を出ていってから1度も帰ってきてないね。何年ぐらいか忘れちゃったなあ」と笑顔で返事しました。私はその時に本当に悲しくなりました。なんだか、おばあちゃんを抱きしめたくなりました。

私はうちに帰ってから、すぐに両親に電話をかけて、ほっとしました。人間はこの世の中で色々な出会いがあるとわかっています。でも、こんな出会いがあったらどう思いますか。どんな気持ちになりますか。色々な理由があるとは思いますが、私はおばあちゃんの子供たちのようにはならないようにしたいです。絶対。

私のまわりには、そんな子供はほとんどいません。両親は自分の子供が自分の足で立てるようになるまで支えます。特にお母さんは子供がこの世の中に生まれる前に10か月ぐらいお母さんのおなかにおいて、それだけ大変だとわかっています。ですから、両親が私たちにしてくれたことへの恩返しとして、私たちは最初の給料を両親にあげたいです。それだけじゃなくて、両親と祖父母が活着ているうちに力の限り恩返ししたいです。おばあちゃんのパンケーキ、また買いに行こうかな。

ご清聴ありがとうございました。



## ⑪ 日本にほんの水みずインフラうが生うむ豊ゆたかさ

ベトナム／チエウ テイ トウ フォン Trieu Thi Thu Phuong

日本に暮らしている皆さんのほとんどは、電気やガス、水道といったライフラインに不自由した経験がないかと思います。日本は自然災害が多い国なので、被災経験のある方々は、ライフラインが寸断されて、不自由な思いをしたことがあるかもしれません。しかし、多くの人は、これらは日常当たり前に使えるものという認識を持っているのではないのでしょうか。今日は、こうしたライフラインの中の「水」に関することについて、外国人である私が、感じたエピソードをもとに、みなさんに伝えたいことをお話します。

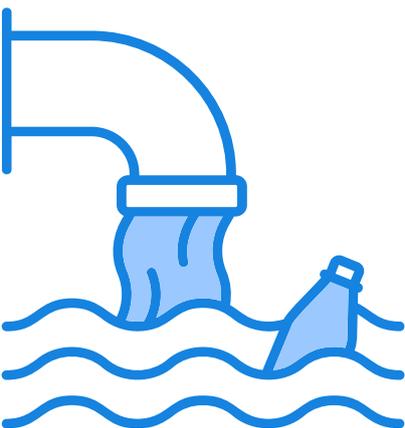
私が、初めて日本に来た日のことです。成田空港に着いてすぐトイレに行きました。トイレットペーパーを捨てるためのゴミ箱を探しましたが、どこにもありません。「どうすればいいのだろう？」と、あわてて立ちあがった瞬間に便器の水が自動的に流れ、大変驚きました。ふと見ると、紙は便器に流すようにという注意書きが張られていました。日本ではトイレットペーパーを便器に流しても問題がなく、それは、紙が溶ける素材で作られていること、そして、下水管設備が優れているからだと知りました。一方、ベトナムでは紙を流すと詰まるため、ゴミ箱に捨てるのが普通です。田舎などでは、便器の横に水が入ったバケツがあり、手桶を使って流すところもあります。日本のトイレは、なんて快適なのだろう、衛生面においても素晴らしいと感心しました。

そして、さらに驚いたことには、水道水をそのまま飲むことができることです。それを知るまで、いつも私は、ペットボトルの飲料水を買っていました。来日して半年くらい経った頃、バイト先のスタッフが水道の蛇口から直接水をコップに注いで飲んでいました。「直接飲むなんて、大丈夫？」と聞くと、その人が「日本の水は、そのまま飲んでも大丈夫なんだよ。」と教えてくれました。日本で水道水が飲用できるのは、浄水技術が優れていて、厳しい水質検査と管理がされているからだと知りました。

ベトナムでは、どの家でも、蛇口からの水は飲めません。水道水を飲む場合は、やかんに入れて一度沸騰させる必要があります。私の家でも、常に私や姉妹たちが飲み水を作る手伝いをさせられていました。直接飲めることができる快適さ、そして、日本の浄水整備に感心しました。また、日本人は飲み水の準備する必要がなく、家事が一つ少なくていいなと羨ましくもなりました。そして、何よりも恵まれていると思ったことは、水が安定して供給されていることです。私は日本で暮らして4年になりますが、今まで断水を経験したことはありません。自然災害などで被災した地域では、断水になったというニュースを聞いたことがありますが、周りの日本人を聞いてみると、断水を経験した人は一人もいませんでした。

ベトナムでは、水不足から水道局が供給をストップして、大都市のマンションでさえ、水が供給されないこともあります。夏は特に、計画断水が実行されることが多く、断水スケジュールを見て、事前に備えるようにしています。断水が長く続くと、人々は夜中から、バケツを持って列に並んで、水をもらうことになります。生活に必要不可欠な水が、日常的に不自由なく供給される日本の水インフラ整備は、本当に素晴らしいと感じました。

このように、水インフラが整っていて、不自由がないというのは、大変恵まれていることなのです。それを実現した日本人の研究力の高さや努力の成果であると、外国人の私は強く感じます。水インフラを整備してくださっている方々への感謝の気持ちを持って、これからも大切に水を使っていきたいと思います。そして、ベトナムも近い将来、日本のように、上下水道の技術、整備が発展して、不自由のない生活ができるようになることを期待しています。



## ⑫ え、それも捨<sup>す</sup>てちゃうの!?

ガルバドラフ ゲレルトヤー  
モンゴル / Galbadrakh Gereltuya

世界で一日にどのくらい食品が捨てられているか知っていますか。皆さん食べ残しと有効期限が切れた商品を捨てていませんか。最近、家庭で食品を買いすぎて、その商品の賞味期限が切れて無駄になっていることが問題の一つになっています。

私は日本に来てコンビニで働いています。コンビニは一日4回商品の有効期限を確認して廃棄にします。そして一回の廃棄でカゴいっぱいの商品が捨てられていました。「茶碗に1粒の米も残してはいけない、運がなくなりますよ」と言う祖母に育てられたので、そんな大量に食品を捨てるなんて私にとってあり得ないことでした。ある日、この問題について店長と話してみたところ、店長が私に「もう、もったいないけど、捨てるしかないよねえ。無料でだれかに差し上げてもその人が病気になってしまったら、だれが責任を取るの。それに、商品を少量で発注したら、お客様から「さがしているものがない」とクレームが入ってしまう。だから、しょうがないね。」とっていました。店長の話聞いて私は口ごもってしまい、言葉が出ませんでした。

なぜ、食品ロス率が増えてきたのかと考えると、だいたい期限が切れたから捨てるのか、おなかがいっぱいだから食べ残しを捨てるのかが多いのだそうです。期限が切れたのはしょうがないのですが、使わないなら買わないで、使うとき買えばいいんじゃないのかなあと思います。買い物しすぎた時「明日これを使おう、これで料理を作ろう」と買ったら、次の日忙しくて作れなかったり、他の料理にしようとして、その買ったものが要らなくなってしまったりします。そして不思議なことに野菜や生ものの形や色によってはスーパーや八百屋などへ納品されないものがあるのだそうです。色を見るのはいいのですが、どうして形が大事でしょう。腐らないで、食べられるならいいんじゃないでしょうか。こういう風に区別するのは変じゃないでしょうか。他のことについて考えると、何日も食べ物を食べられなくて、水だけで生きている人もいます。皆さんが「要らない」と捨てている物がほしくて、ほしくて手に入れられない人が何億人もいます。

では、食品を捨てたことでどんなトラブルが起きているか皆さん知っていますか。私たちの捨てた物からリサイクルできない部分を自然に捨てているのは、自然を汚して自分の生きる環境を自分で破壊しているにほかならないでしょう。そして、農家とメーカーの努力を無駄にしていることも残念すぎますね。それに、食料にするために動物と家畜も殺しているのです。皆さん、日常の料理に鶏肉と牛肉、豚肉も使いますね。肉は、スーパーやコンビニで売られている時、賞味期限が切れるとたくさん捨てられていますよ。これは、自分の手で動物を殺して捨てているのと同じに違いありません。

さて、この問題をどうやって解決したらよいのでしょうか。もちろん今まで、この問題に対していろいろな方法を試した人がいますが、どうして結果が出ないかというと、何十億人もいるこの世界の問題に対して数えられるほどの人しか動いていないからです。私たち人間が皆で行動すれば、食品ロス率を減らせると思います。これから皆さん、買い物する時、必要な分だけ買って、食べ残しをしないで、買ったものを適切に保存していただければ、少しでもよくなると私は思います。

ご清聴ありがとうございます。



# ⑬ 言語を超えた温かさ、心で繋がる瞬間

ちゅうごく オウ ナリタケ  
中国／王成岳

こんにちは、皆さん。

今日は、私が日本で経験した、ある温かい出来事についてお話ししたいと思います。言葉を超えた温かさが、どんなに心に響くのか、そのことを感じた瞬間がありました。

日本に来て、まだ言葉もよくわからず、文化にも慣れない頃。東京の写真美術館に行ったことがありました。展示されていた写真を見ていると、言葉がなくても、ただその一枚の写真を見つめているだけで、作者が伝えたかった感情が、どんどん心に入ってきたんです。日本語も英語も韓国語も、言葉の違いはあっても、写真が語る感情に国境はなかった。その瞬間、私は強く感じました。言葉だけじゃなくて、写真や表情、視線を通じて、心が通じ合うことができるんだなって。

そして、その帰り道。あの日、ものすごく強い雨が降っていて、私は道に迷ってしまいました。携帯の電池も切れて、どうしたらいいのかわからなくなりました。周りの人に声をかけることもできず、ただ一人で、雨の中に立ち尽くしていました。

その時、思い切って近くのクリニックに行き、インターホンを押しました。クリニックはもう閉まっていたけれど、優しそうな女性がドアを開けてくれました。私がどんなに困っているかを察したのか、彼女は一言も言わずに、私を中に招き入れてくれました。

その時、私は体が震えていて、どうしていいかわからなかったけれど、彼女は私に温かいお水を差し出し、毛布を持ってきてくれました。そして、震える私に、「大丈夫だよ、怖くないよ」と、ゆっくり言ってくれました。その時、私は言葉がうまく通じなくても、心の中で彼女が伝えようとしている優しさがしっかり伝わったんです。

彼女は私が日本語をうまく理解できないことに気づいて、紙に小さな絵を描きながら、私に状況を説明してくれました。まるで子供に話すように、彼女は私を安心させようとしてくれました。その瞬間、私の不安や恐怖はすっと消えて、ただ彼女の温かさだけが心に残りました。

その後、彼女は診療所の電話で私の家族に連絡をしてくれ、無事に帰ることができました。あの時の出来事が、今でも私の心に深く刻まれています。日本に来たばかりで、言葉も通じず、困っていた私を助けてくれた彼女の優しさは、今でも忘れられません。

今では、日本語も少しはわかるようになり、道に迷うこともなくなりました。けれども、あの時の温かい瞬間は、私の中でずっと大切な思い出として残り続けています。

私が考えるのは、言葉を超えた心の温かさが、どんなに大切かということです。あの時、言葉が通じなかったけれど、彼女の優しさと温もりがすべてを伝えてくれました。それが本当の意味でのコミュニケーションなんだと、私は感じました。

これからも、私はその教訓を胸に、言葉の壁を越えて、他の人とも心でつながりたいと思っています。

ご清聴ありがとうございました。



## ⑭ <sup>わたし</sup> <sup>にほん</sup> <sup>え</sup> 私が日本で得たもの

ルオン ティ グエット  
ベトナム / Luong Thi Nguyet

皆さん、こんにちは。ベトナムから参りましたルオン・ティ・グエットと申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

留学生の皆さん、日本に来たのは初めてですか。2回目の方はいらっしゃいますか。私は今回2回目です。

最初、2017年に実習生として初めて日本に来ました。静岡県の会社で毎日、朝8時半から夕方6時まで仕事をしていました。週末はいつも家で映画を見たり、ゴロゴロするだけでした。それで時間がもったいないと思いました。

私はボランティアの日本語クラスを探して参加することにしました。日本語だけじゃなくて日本の文化や日本のマナーなどを教えてもらって楽しい体験もしました。特に国際文化交流イベントで外国人の代表としてスピーチしたことはとても良い経験になりました。その時、市長さんや皆さんにほめて頂いたことは今でもよく覚えています。「日本のことをもっと知りたい。」「日本語をもっと勉強したい。」と思うようになりました。3年間の実習が終わって国に帰ることになりました。もう一度日本に戻りたいと思いましたが、その時コロナが流行っていたので、すぐには戻れませんでした。その間、国で一生懸命日本語の勉強を続けました。

2023年6月にやっと留学生として日本に来ることができました。実習生と違い、留学生は毎日、学校で勉強して家でも宿題をしなければなりません。アルバイトもしています。とても忙しいです。でも、日本人の先生方や外国人の友達と日本語で話すチャンスがあるので毎日楽しいです。

現在、飲食店でアルバイトをしています。いいこともあるし、嫌なこともあります。ある日、こんなことがありました。お客さんがお店に入って来て店員を呼びました。私が注文を取りに行くと、お客さんが突然大きい声で「あなたは日本人じゃないでしょ。日本人の店員を呼んで。」と言いました。私は何か失礼なことをしたのかなとか、日本語が通じなかったのかなと考えていました。そんな時、店長と日本人の店員が私を見て、「大丈夫、大丈夫、気にしないで。」と言ってくれました。外国人、特にベトナムや東南アジア出身の私達はあまり良い評価をされていないんだなと感じました。それはとても悔しい体験の一つです。

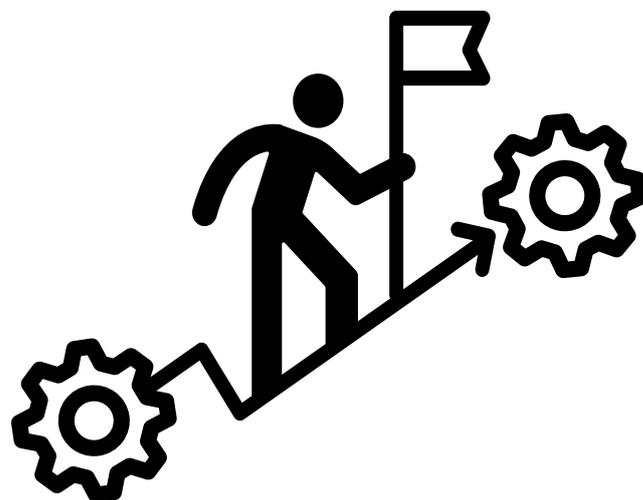
でも、嬉しいこともあります。お店には優しいお客さんもたくさん来てくれます。私の顔を覚えていていつも「頑張っってね。」って応援してくれます。本当に感謝しています。これは嬉しいことの一つです。

日本に留学したことで、日本の伝統文化にも触れることができました。初詣やお花見などの行事を通して日本の文化に対する理解も深まりました。

私は夢を持って日本へ来ました。日本語を学んで、将来、日本企業で働きたいと思って毎日努力しています。

だから、少くくらい嫌なことがあっても応援してくださる方もいるので、頑張ることができまます。

皆さんも色々な体験をすると思います。泣きたい時もあるでしょう。国へ帰りたいたいと思うこともあるでしょう。でもあきらめないでください。夢を叶えるために、これからも頑張っってください。私も頑張ります。ありがとうございました。



# MEMO

みなさま ねが  
皆様へのお願い

- きゃくせきない いんしょく きんし  
• 客席内での飲食は禁止となっております。
- けいたいでんわ でんげん き せってい  
• 携帯電話は電源を切るかマナーモードに設定してください。
- はな とちゅう にゆうたいじょう えんりょ あいま ねが いた  
• 話している途中での入退場はご遠慮ください。スピーチの合間にお問い合わせ致します。
- とうげきじょう ぜんかんきんえん  
• 当劇場は全館禁煙となっております。
- せき はな かなら きちょうひん も じしん かんり  
• 席を離れるときは必ず貴重品はお持ちください。ご自身でしっかり管理してください。
- ひじょうぐち きやくさき こうほう しょ わき しょ かくにん  
• 非常口は客席の後方2か所と脇に1か所ありますのでご確認ください。
- ほんじつ ようす とうきょうかい しんぶん こうほう こうかい  
• 本日のコンテストの様子は当協会ホームページや新聞、テレビ、広報まつどで公開する  
ばあい りょうしょう  
場合がありますのでご了承ください。
- みなさま かいじょうない さつえい がぞう ろくおん おんせい に じ しょう ほうりつ きんし  
• 皆様が会場内で撮影した画像、録音した音声の二次使用は法律により禁止されております。



公益財団法人松戸市国際交流協会(MIEA)

住所 〒271-0092 松戸市松戸1307-1 松戸ビルヂング4階

電話 047-711-9511 FAX 047-308-6789

E-mail : office@miea.or.jp

